

授業科目名	観光産業分析	担当教員	高橋 一夫
必修の区分	選択		
単位数	1 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1 年 第 3 クォーター		
講義内容	<p>観光立国推進基本法では、観光立国の実現に向けた 4 つの柱の一つとして、観光産業の国際競争力強化を掲げている。その達成には、観光産業を支える人材の育成が不可欠であると明確に示されている。本講義では、観光産業が求める人材に必要な知識や理論とは何かを、各業種のビジネスモデルを分析することで体系的に理解していく。</p> <p>講義では、観光産業の中核を担う主要業界を取り上げ、その事業の本質、事業展開の仕組み、そしてイノベーションによるビジネスモデルの変化について考察する。こうした分析を通じて、ビジネスモデルの優劣を判断する基準や設計思想を導き出すとともに、特定のビジネスモデルが成功する理由、あるいは失敗する理由を、関連する理論に基づいて検討する。</p>		
到達目標	<p>本講義は、2 年次以降に学ぶ観光関連産業科目や実践的教育の基盤となる、ビジネスモデルに関する基礎的な知識と理論を身につけることを目的とする。</p> <p>そのために、以下の能力の獲得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光関連産業の理解に必要な基礎理論を習得し、主要な概念を説明できる。 2. ビジネスモデルの構造や設計思想を理解し、その優劣を判断する視点を身につける。 3. 観光関連産業および地域の観光事業における多様なビジネスモデルの実例を把握し、特徴を整理できる。 4. 自身が志望する観光産業分野について、興味・関心の背景や志望理由を言語化し、将来像を描けるようになる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ビジネスモデルとはなにか。身近なコンビニエンスストアから考える 2 授業 1 の議論をもとに理論解説(ビジネスモデルの優劣の判断、設計の思想) 3 ケーススタディ) 世界のレストランを即時予約するオープンテーブル 4 授業 3 の議論をもとに理論解説 (リーン消費) 5 ケーススタディ) 観桜期の吉野山の大渋滞の解消 6 授業 5 の議論をもとに理論解説 (観光における共通価値の創造) 7 ケーススタディ) ローコストキャリアは「安かろう悪かろう」なのか 8 授業 7 の議論をもとに理論解説 (ショストックの分子モデル) 9 ケーススタディ) 集客施設の欠点をなくしたキッザニア 10 授業 9 の議論をもとに理論解説 (集客施設の繁閑運営管理) 		

	<p>11 ケーススタディ) アライアンスがもたらす新たな価値 (レガシーキャリア)</p> <p>12 授業 11 の議論をもとに理論解説 (範囲の経済性)</p>
事前・事後 学習	<p>予習内容:教科書の指定の章を読み、分からない語句や理解しづらい箇所を抜き書きしておくこと</p> <p>復習内容:授業で指示する箇所、内容について復習すること</p>
テキスト	石井淳蔵、高橋一夫編著『観光のビジネスモデル』学芸出版社 (2011年12月刊)
参考文献	講義の中で指示をする。
成績評価 の基準	最終レポート70%、授業中課題30%
履修上の注 意履修要件	観光経営学とセットで受講することが望ましい (必須ではない)。
実践的教育	該当しない。
備考欄	定員超過の場合、抽選により履修者を選定する。